

みんなで語り、みんなでつなごう

郷土芸能復興支援メッセ in 釜石

一般公開
(参加無料/事前申込不要)

芸能道具、衣装関連についてのご紹介

道具の製作や日頃の手入れの方法などについて、わかりやすく紹介します。

当日参加のみなさんに無償で太鼓の締め直しをいたします。(太鼓の締め直しは先着順です。対応できない場合もございます。あらかじめご了承ください。)

芸能支援に関する 助成情報についてのご紹介

震災関連だけでなく、平常時を含むさまざまな助成制度と、その申請手続きなどについて、丁寧にご案内します。

学術団体によるこれまでの 支援活動についてのご紹介

皆様と一緒に何ができるかを、自由闊達に話し合います。

東京文化財研究所が制作したデータベースより、昔の釜石のお祭りの写真データをご覧いただき、ご希望があればデータを提供いたします。



来場者のみなさんと コミュニケーションを図る 「語りの広場」

芸能団体や主催者がともに、今後検討・改善すべき課題などについて、話し合います。芸能道具・衣装関連業者のみなさんによる、日ごろ心がけるべき維持・管理方法や助成情報などについての質問もお受けします。



日時

平成30年

2月24日◎ 9時30分～15時30分

2月25日◎ 9時30分～16時

会場

釜石市民ホール TETTO

〒026-0024 岩手県釜石市大町1丁目1-9

東京文化財研究所制作のデータベース
「無形文化財遺産アーカイブス」より

主催：国立民族学博物館「郷土芸能復興支援メッセ in 釜石」実行委員会/大学共同利用機関法人人間文化研究機構基幹研究「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」
釜石市/釜石市教育委員会
後援：独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所/公益社団法人全日本郷土芸能協会
協力：(株)浅野太鼓楽器店/(株)伊藤染工場/(株)京屋染物店/(株)宮本卯之助商店

郷土芸能復興支援メッセ 開催趣旨

みんなで語り、
みんなであつなごう

郷土芸能復興 支援メッセ in 釜石

日時

平成30年

2月24日⑤ 9時30分
～15時30分

2月25日⑥ 9時30分
～16時

会場

釜石市民ホールTETTO

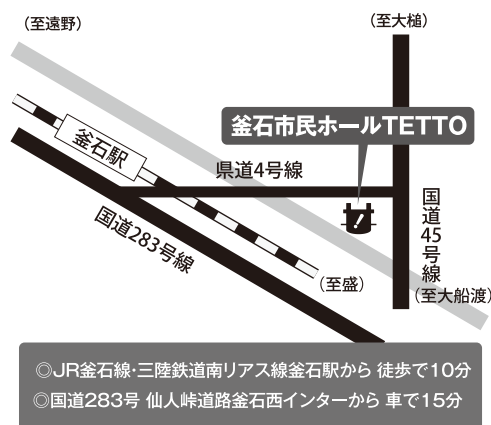
〒026-0024 岩手県釜石市大町1丁目1-9

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方太平洋沿岸3県を中心に甚大な被害をもたらしました。その被害は人びとの暮らしのあらゆる面におよび、各コミュニティが地域のなかで育み、継承してきた伝統文化も、その担い手の被災や道具類の喪失などによって、大きな痛手を被りました。

国立民族学博物館（以下、民博）は、東日本大震災発生後、他の組織や団体と協力し、被災地の文化遺産の被害状況を調査し、その再建・復興に向けての支援をおこなってまいりました。それと同時に、2012年から、被災地の郷土芸能団体を関西にお招きし、被災地の現状を広く知ってもらうためのシンポジウムと合わせて民博等での公演を開催してきました。また、現地の郷土芸能継承者と連携し、活動再開に支障を抱えている団体の実態調査と、必要経費の申請手続きのサポートをおこなってきました。

これまでの約7年間にわたるこのような活動を通じて、伝統文化とりわけ暮らしと密接に結びついた郷土芸能のもつ意味、地域の復興や生活再建に果たす役割の大きさを改めて知るとともに、活動再開が困難な状況からの脱却には、多方面からの支援が必要かつ重要であることが明らかとなりました。

本企画「郷土芸能復興支援メッセ in 釜石」は、郷土芸能団体が活動を継承し、未来に向けてさらに活動を活性化していくために、被災した郷土芸能団体のこれまでの歩みと現在の課題を共有するとともに、今後発生するであろう自然災害などによる存続の危機に対応するための、事前対策、支援の在り方、その支援を受けるためノウハウの整理、平時における衣装・道具類の維持・管理の仕方などを共有する機会とすることを目的としています。



郷土芸能復興支援メッセ in 釜石 実行委員会

実行委員長：笹山政幸（国立民族学博物館大規模災害復興支援委員会外部調査員）

副実行委員長：日高真吾（国立民族学博物館大規模災害復興支援委員会）

実行委員：丸川雄三（国立民族学博物館）

寺村裕史（国立民族学博物館）

お問い合わせ先

国立民族学博物館 日高真吾研究室

Email:s-hidaka@idc.minpaku.ac.jp TEL:06-6878-8337